



# 岡田

学校教育目標

10年間を見通した確かな学力と  
豊かな人間性の育成

目指す子ども

ふるさ加佐を愛し 夢 未来に向かって歩み続ける子ども  
~笑顔で いきき 自分から~

平成30年7月20日

舞鶴市立岡田小学校  
学校だより No.5

<http://okada-es.maizuru.ed.jp>

## 学期終了にあたって

「平成30年7月豪雨（西日本豪雨）」

では、各地に大きな災害をもたらし、住民の日常生活だけでなく、多くの尊い命

を奪いました。お亡くなりになられた方々に心よりご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族の方々へ衷心よりお悔やみ申し上げます。また、いまだ行方不明の方々の一刻も早い発見を願っております。被災地では連日の猛暑の中、懸命の復旧活動が続いています。一日でも早く元の生活に戻れますようお祈りいたします。

この岡田の地も河川の氾濫や増水、土砂崩れ等によって、家屋の浸水や損壊、道路の陥没など、多くの被害がありました。現在も復旧作業が行われており、被災された皆様に対し、心よりお見舞い申し上げます。

学校は大きな損害はありませんでした。一番水かさが増した時には、「離れ小島」となりましたが、水が引いた後、地域の方々による道路等の土砂撤去作業のお陰で、早くに校内への出入りが可能になりました。月曜日に登校してきた児童は、さすがに疲れた表情の子も多く、自宅や地域の復旧活動を手伝っていた様子が見えられました。しかし、友達と一緒に遊びや勉強をする中で、表情も明るくなり、いつもの様子を取り戻したように見えます。

日曜日に予定されていた「岡田中まつり」が、豪雨災害の影響で中止となり、カレンダー通りの3連休でしたが、尋常ではない暑さでした。「猛暑日」は2007年4月から基準が定められましたが、1990年代前半までは、気温35℃を超える日は数える程です。1990年代後半以降は徐々に多くなっており、近年は非常に暑い。しかも、ここ数日はずっと猛暑日。グラウンドや駐車場、プールサイド、路上など屋外は非常に高温です。教室ではエアコンがあり過ごしやすですが、外や体育館は別です。でも、休み時間になると体育館を中心に楽しそうに遊ぶ子どもの姿も見られ、子どもたちの元気さに触れるとうれしくなります。（こまめに水分補給をするなど、健康管理は欠かせませんが…）



7月中旬から、昇降口のケースの中で、真壁の村上 英優 様にいただいた「カブトムシ」の羽化が始まりました。「大切に世話をすると約束できる子」を条件に希望者を募り、9人が自宅で世話をしてくれることになりました。カブトムシの一生は約1年間です。卵から幼虫、さなぎを経て成虫になると、子孫を残してその一生を終えます。自分の命を精一杯生きる1年間ですが、人間と比較するとあまりに儂いものです。「一寸の虫にも五分の魂」といいます。命の尊さに大きさは関係ありませんが、命を大切にすることというのは、虫でも人間でも、それぞれに持って生まれた命を精一杯生きることだと思えます。虫（虫に限りませんが…）は自分の命を精一杯生きようとしします。終業式に「命の大切さ」について話をしました。幼い命をめぐって悲しい報道に接することも多いですが、自他の命を尊重するということは、当たり前ではあるけれども、意識しないと軽視されてしまうこともあります。自然を前にして人間の命でさえ儂いものに感じることもさえありますが、せめて人間社会の中では、各々の命が大切に守られ、精一杯生きることが認められるものでなくてはなりません。子どもも大人もそのことをしっかりと自覚し、子どもたちの元気で明るい笑顔が当たり前に見られる社会を望むばかりです。

今日で第1学期を終えました。保護者・地域の皆様には、この1学期間、学校の教育活動に対し、多大なご支援を賜り厚く御礼申し上げます。お陰様で、保護者・地域の皆様に見守られて、子どもたちは登下校や様々な学習活動、地域での生活を安心・安全に過ごすことができました。

明日から長期休業に入ります。毎日の学校生活に加え、陸上大会などへの積極的参加など、それぞれの学年に応じてしっかり活躍することができた子どもたちです。保護者の皆様におかれましては、通知表や担任との個人懇談をもとに、子どもたちのがんばりをしっかりと褒めていただければと思います。始業式は8月29日（水）です。充実した思い出を胸に、ひと回りもふた回りも成長して登校する子どもたちに出会えることを楽しみにしています。



### 小中一貫で子どもを育てる…④ 5年生の中学校体験

7月11日（水）に、5年生が由良川小学校の友達と一緒に加佐中学校へ行き 中学校体験をしました。美術と数学の授業を体験し、中学校の授業の雰囲気にも浸りました。美術の時間で、マス目を活かすとして上手に模写できることを体験するなど、専門的な学習に触れることもできました。このように、小中のスムーズな接続に向けて取組を進めています。



校長 波多野 暢 教職員一同